

■工学研究科 航空宇宙海洋系専攻 航空宇宙工学分野

○カリキュラム・ポリシー

【博士前期課程】

1. 航空宇宙海洋系専攻航空宇宙工学分野のディプロマ・ポリシーを踏まえ、学域と大学院博士前期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育を行いつつ、学域から大学院に至る教育を行うとともに、航空宇宙工学分野の教育目標の達成を目的として、教育課程編成を行う。
2. 授業科目は特論等の講義、特別演習、特別研究により編成する。特論等の講義により、専門分野に関する高度な専門知識を獲得させる。特別演習では、学生の専門及び周辺分野についての調査・討論・実験等を通じて、幅広い専門知識を習得させるとともに、問題の分析・総合・評価能力を高める。特別研究では、理論・実験などの研究指導のもとに修士論文を作成し、専門的な課題についての研究能力と問題解決能力を培う。
3. 伝統的な学問分野の区分により教育研究を行う従来型の「標準履修課程」と、学生の所属分野に軸足を置きながらも、複数の専攻・分野にわたる横断的な学際領域を履修できる「オプション履修課程」を設ける。
4. 研究公正について自らの問題として考える姿勢を培い、研究不正の種類や内容について理解させる講義科目を大学院共通教育科目として開設する。
5. 研究者・技術者に必要な英語の運用能力を修得させるため、英語で実施する講義科目を開設する。
6. 留学生の教育環境の充実を図り、海外大学との学生交流や教育連携を強化するため、すべての講義を英語で実施する「英語コース標準履修課程」を設ける。
7. 企業経営者等による講義を通して、産業界で活躍するイノベーション創出型研究者としての素養を修得できる講義科目を大学院共通教育科目として開設する。
8. 修了要件として、共通基礎科目、専門科目、研究指導関連科目の必要単位数を別途定める。

【博士後期課程】

1. 航空宇宙海洋系専攻航空宇宙工学分野のディプロマ・ポリシーを踏まえ、学域と大学院博士前期課程および後期課程のそれぞれにおいて完結性をもたせた教育を行いつつ、学域から大学院に至る教育を行うとともに、航空宇宙工学分野の教育目標の達成を目的として、教育課程編成を行う。
2. 自立した研究者として活躍できる創造的研究開発能力とともに高度な指導能力を養成するため、指導教員が学生の研究目的にあわせ、個別に履修指導を行うとともに、マンツーマンの研究指導を行える指導体制とする。
3. 授業科目は、特別講義、特別演習、特別研究により編成する。特別講義により、専門分野に関するより高度かつ最新の研究動向に基づいた専門知識を獲得させる。特別演習では、学生の研究課題及び周辺分野の最新の研究動向に関する調査、討論、実験等を通じて、特

定分野の深い専門知識と周辺分野の幅広い知識を修得させるとともに、問題の分析・総合・評価能力及び知識の体系化能力を培う。特別研究では、理論・実験等の研究指導のもと博士論文を作成し、自立した研究者となるために必要な研究計画能力と総合評価能力を培う。

4. 研究公正について自らの問題として考える姿勢を培い、研究不正の種類や内容について理解させる講義科目を大学院共通教育科目として開設する。
5. 企業経営者等による講義や企業でのインターンシップを通して、産業界で活躍する企業研究リーダーに求められる能力と素養を修得できる講義科目・演習科目を大学院共通教育科目として開設する。
6. 修了要件として、共通教育科目、専門科目、研究指導関連科目の必要単位数を別途定める。